

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392700013		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム鴨方 (1Fユニット)		
所在地	岡山県浅口市鴨方町深田439-1		
自己評価作成日	平成22年12月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3392700013&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年1月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 各ユニットの出入り口の鍵を開放し、利用者様が自由に出入りできるようにする。 3ヶ月に1度のホームだよりとして新聞を発刊し、外部・ご家族・地域へ情報提供する。 委員会を発足しスタッフの質の向上に努める。 H21年度達成目標2項目の中の一つ、「ホームのたよりを発行する」という事が出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度に入ってから、このホームに急変の大きなうねりが沸き起こり、職員はその対応に一時あたふたと聞いたが、皆さんの中に入ると昨年同様それぞれにその人らしさを発揮。健在な姿に安心した。それどころか、一年前より良い状態の利用者の笑顔にも出会う事ができた。しかも、今、まだ十分な体制が整えられていない部分も残ってはいるが、「新生やすらぎホーム鴨方」の息吹を感じる一日となった。その一つは、「鍵の掛かっている玄関」だろう。開かれたホームへの職員の決断に拍手を送りたい。もう一つは「やまぼうし通信」の誕生だ。やまぼうしの花言葉は「私をわかってください」と言う。息吹きは本当はまだ他の面でも見られた。目標達成計画へのチャレンジが始動している。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に経営理念・運営方針を掲げ意識を持ち、それを基本に行動している。	事業主体「ベルビィ」が示した基本理念や運営方針を軸に、今の利用者の状況に合わせた日々のケア目標を職員が共有し、実践しようと努力している。また、「地域とのつながり」を重視した運営を念頭に置いている。	理念を職員間で確実に共有し実現する為に、短期間でお互いに評価したり確認し合える具体的小目標を掲げてみてはどうか。上からの指示ではなく、職員間の話し合いの中から決めてみたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りでは近所の方に参加して頂き、また、地域のボランティアの方にもホームに来てもらい、演芸や歌を披露して頂いている。	地域との交流をホームの課題の一つと考え、「開かれたホーム」目指して地道な取組みをしている。お祭りに何度か参加していると席を設けてくれるようになる等、徐々にではあるがお付き合いの輪が広がりつつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1度事業所の新聞を発行し、利用者様の様子、支援の内容等を外部に発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催できるようになった。今後は利用者様やそのご家族様にも参加出来るように努めたい。	市の高齢者支援課や民生委員の参加があり、この会の運営の仕方や地域交流のアドバイス等、貴重な意見を頂いている。今後参加者の幅を広げたり、内容の検討も協議を重ねて、より良いものにしていこうとしている。	地域との交流を課題の一つと考える時、この会議での話し合いが有効であることが多いので、会の規程や企画も練り直してみてはどうか。会議で提案された案件を一つでも実現させていこう。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議での情報を頂いたり、市の研修会に参加し、職員の方との情報交換を行っている。	浅口市の担当者の認知症に対する取組は積極的で、「地域で支えるワーキング会議」、その他の研修を実施し、ホームの職員も参加・研修をしている。双方が良い協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出口の施錠を開放することになった。他の身体拘束についても身体拘束廃止委員会を立ち上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今迄踏み切れなかった玄関の施錠をオープンにした事で得た事は大きい。今日も外に出たがる人が居たが、職員及び他の利用者共々良い対応をしていた。昨年11月より該当委員会を設立。今後問題が生じた時に開催する予定と言う。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待もそうだが、言葉による虐待が行なわれないように言葉使い、接遇マナーに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニットに成年後見制度を利用されている方が居るので、職員も権利擁護に関する意識が高まってきている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を参照し十分な説明をおこなっています。重度化や看取りについての対応も詳しく説明し同意を得ています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や物品を購入する前、病院受診した時等、電話連絡を取り、家族の意向、要望を聞いています。	特に家族から意見を聞くようなチャンスは設けていないが、日頃から面会や電話等で家族とはよくコミュニケーションを図っている。気が付いた事を話してくれる家族もあるし、利用者は遠慮せずお互い何でも言い合える雰囲気が見られる。	利用者や家族の思いや希望等にホーム側が耳を傾けようと言う姿勢は「もうこれで十分」と言う事はないと思う。あらゆるチャンスを捉えてキャッチし、ホームの運営に反映させるシステムを考えてみたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2度、代表者と管理者の会議を行っています。月に1度、管理者と職員の会議を行い、意見交換を行っています。	職員会議には全員が参加して意見交換し情報を共有している。日常的にもよく話し合っているが、統括が個人面接をして、個別に意見や要望を聞いている。「4ユニットの職員の交流会」も提案されていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々が向上心を持って働けるように努力し、成果を評価しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員、ベテラン職員共にレベルアップが出来るよう、研修参加の機会を作っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会・勉強会を中心に参加し、同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で家族と本人様から生活状況を聞き、利用者様の要望や不安を理解するように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で家族様の不安、要望を聞き取り、対応出来るよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望に対し、必要に応じて他のサービスの利用の調整を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事、出来ない事を見極め、掃除、洗濯等を手伝って頂いています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室でお話しが出来るよう対応しています。ご家族様への連絡、面会時に状況をお伝えし、共に支えていく関係を保っています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間に関係なくいつでも面会して頂いています。本人様の大切にされている物を持参して頂き、関係を保っています。	「吊るし柿を作るのに自宅の柿を取りに帰りたい」「畑に芋を掘りに帰りたい」「お寺やお墓参りに」「お正月のお飾り作りのワラを取りに」等、馴染みの関係を大切に、また、地域とのつながりが途切れない様支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介役とし、利用者様同士関わりやすい雰囲気を作り、支え合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた場合、面会に行かせて頂いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活において職員から声掛けし、希望や意向を聞いています。意思疎通が困難な利用者様にはご家族様から情報を得ています。	Aさんは居室に仏様をお祭りし、年末にはお寺さんにお経をあげに来て頂いたと言う。Bさんは、今日私に日頃から脇目も振らず作り続けている桃の種の細工物をプレゼントしてくれた。このように、職員は一人ひとりの利用者の思いを可能な限り叶えようとしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に生活歴、趣味、嗜好を教えて頂き、その情報をミーティング等で職員に伝えています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握し、行動、心身状態を把握し、小さな変化もキャッチするように努めています。また、体操、ゲームで持っている能力を把握しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がケアマネージャーと一緒にケアプランを作成しています。家族の思いをプランに掲げ、スタッフ会議で話し合い、計画を上げています。	入所後3週間で作成、その後3ヶ月・6ヶ月と見直ししている。マイナス面ではなくプラス面に注視して、本人が望んでいる暮らしに近付けるよう、日々のモニタリングに力を入れている。	このホームでは、利用者本人がプラン作成に参加出来る人も居ると思われるので、一人でも多く個性的で具体的なアイデアを生み出して見て欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、健康チェックをしています。日々の生活の様子、状態変化を記入し、プランの見直しに活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況に応じて通院や送迎を行います。必要な支援は柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議等で支援に関する情報、地域の情報を聞き、活用させて頂いています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人様か又は、家族様が希望するかかりつけ医となっているが、病院が遠方にある等、止むを得ない場合は家族と相談の上、病院を決めさせてもらっている。	利用者一人ひとりとしっかり向き合い、心のケアを大切にしているホームだが、身体面の変化等にもよく気を付けており、特にかかりつけ医の受診は殆んどの場合職員が付き添うようにして、医療面においても精一杯の支援をしている。	将来利用者の重度化も念頭に置いて、現在のこのホームの「かかりつけ医支援体制」を見直しておいた方が良いかも知れない。職員の受診付き添いが今以上に増えていくとケアに問題が生じてくるかも知れない。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも気配りし、早期発見に努めています。いつもと違うと感じたり、健康状態に変化があれば看護師に連絡し、指示を仰ぎ、受診や処置をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人様の情報を医療機関に提供しています。定期的に面会し、退院支援ン結び付けています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針を家族に説明し、確認印を頂いています。医師の協力を得、ご家族様の意向をお聞きし、チームで取り組んでいます。	昨年9月にも短期間ではあったが看取りの経験をした。今後も本人・家族の要望が強く、家族・医療面の環境を整えば、職員間で前向きに検討していきたいと言う。昨年8月の職員会議でも看取り体制の骨子について話し合われていた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のかかりつけ医、ご家族様の連絡先を記入した一覧表を作り、緊急時に備えています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(5月・11月)避難訓練を行っています。スプリンクラーの設置をしました。	夜間の火災を想定して春・秋と年2回、利用者も参加して避難訓練を実施しているが、「消防署や地元の消防団や近隣の住人の参加協力」「2階から階下への避難」等の課題については、今後検討していく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、接遇マナーを心掛け、利用者様本位のサービス提供に努めています。	「Aさんを尊重しようとする」とBさんが傷つく」といった場面が今日の訪問中でも見られたが、職員は間に入り、双方を立てるように話したり、「さっきはごめん」と謝る等して、それぞれの誇りやプライバシーを大切にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声掛けを行い、表情等で読み取り、本人の行動で決定するよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせて行動しています。本人様の意志を確認し、希望に添えるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に洋服を出し選んで頂いています。意思決定が難しい利用者様には季節に応じた服を選んで頂いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に希望献立を聞き、一人ひとりの好みを尊重しています。下膳の手伝い等、手伝って頂いています。	業者の宅配で食材は賄っているが、フライを揚げたりキュウリを刻む等、台所で調理し、各人に対応した工夫で盛り付けている。職員も利用者の中に入り、和気あいの食事風景が見られ、これも改善された一例である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え水分量、食事量を記録し、食事量が少ない場合には補給をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行っています。利用者様の状態に合わせて洗面所にて口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を記入し、トイレでの排泄を促しています。リハビリパンツから布パンツに変え自立支援を行っています。	排泄支援は人としての尊厳を守る基本として重視している。可能な限り、そして、多少失敗はあっても布パンツ使用を目標にしている。失禁があっても、風呂場から直行できるトイレの造りが有り安心できる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェック表にて記録を残し、十分な水分補給を行って便秘解消に努めています。受診時Drと相談の上、緩下剤を内服されている方もいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は入浴をして頂けるようにしています。本人の体調、希望を確認して入浴して頂いています。	自分で体を洗いたいと言う人に対しては見守りで、出来る限り自分で出来ることはしてもらっている。結果的に上手く出来ない時も、場面を外す等して職員がカバーしている。拒否の人に対しても色々な工夫が見られる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えています。眠剤を服用されている利用者には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに効能書きを閉じて整理しています。服薬時には確実な服薬をしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	桃の種での細工をされたり、歌を歌っています。広告の整理をされ、それぞれ楽しみを尊重し支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	海岸沿いのドライブ、買物を一緒にしています。	前年度の目標達成計画の一つ「外出支援」について、当初の計画通り進めることは出来なかったという事だが、その日、その時思いついたお出掛けを少しでも多く増やしていければ良いと思う。「外出支援計画」でなくても「今日は行くぞ！ ノート」でも良い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の状態に応じて現在はお金を所持されている方はいませんが、買物等でお支払いを手伝って頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご家族様が準備され、電話をかけられたりしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール前のベランダで採光が入るようにしています。施設の周りは畑や田があり、季節に応じて田植え、稲刈りが見学できるような環境です。	特に2Fユニットでは「お正月の書き初め」「塗り絵」「皆の合作ちぎり絵」等のコーナーがあり、日頃の活動ぶりがよく伺われた。1Fユニットの畳コーナーでは、男性利用者が洗濯物畳みに精出す姿も見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所からホール一体が全て視界に入り易くなっています。思い思いの場所で工夫されています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、ベッドは備え付けですが、その他の持ち物は本人様が使用していた持ち物で配置されています。	このホームでは「昼間の時間帯はみんな一所にリビングルームで過ごそう」という習慣が根付いているようで、居室は寝室となっている人が多い。その為か、自分の馴染みの物の持ち込みも少な目のようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで危険のないよう環境整備を行ない、安全な生活を送って頂いています。		